

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

世界は、2008年9月のリーマン・ショックで経済・金融危機に見舞われました。欧米政府・中央銀行の大規模な資金供給でとりあえず終息しましたが、今度は、ギリシャ・ショックで欧州債務危機が勃発しました。おかげで1999年に導入されたユーロ崩壊による世界恐慌が懸念されました。こうした中で、2017年1月のアメリカでのトランプ政権の登場で、国際金融市場も大きな影響を受けつつあります。

中小証券への経済・証券市場予測などの情報を提供している日本証券経済研究所における実務経験に基づいて、国際金融市場や外国為替市場の見通しの分析手法について詳しく講義します。

本講義では、国際金融市場の基本的仕組みを詳しく説明したうえで、第二次世界大戦後の米ドル体制の成立、ドル危機の進行、そして、ヨーロッパでのユーロ導入による、ユーロとドルの対抗、世界金融危機と欧州債務危機について明らかにします。

授業計画

| | |
|------|---------------------|
| 第1回 | 講義の概要 |
| 第2回 | 国際金融とはなにか |
| 第3回 | 外国為替相場の見通しの分析手法の解説 |
| 第4回 | 国際通貨と国際基軸通貨 |
| 第5回 | 国際収支 |
| 第6回 | 国際金融市場とリスク管理 |
| 第7回 | IMF体制の成立と崩壊 |
| 第8回 | 欧米の資産バブル |
| 第9回 | リーマン・ショックと国際金融危機 |
| 第10回 | アメリカ・中央銀行（FRB）の全面出動 |
| 第11回 | ヨーロッパの統合の進展 |
| 第12回 | ユーロ導入と資産バブル |
| 第13回 | 欧州債務危機の勃発 |
| 第14回 | 欧州中央銀行（ECB）の全面出動 |
| 第15回 | 国際金融市場の見通しの分析手法の解説 |
| 第16回 | 期末試験 |

到達目標

国際金融市場の基本的な仕組みを理解してもらいます。とくに、為替相場の決定メカニズム、国際収支の構造など、しっかりと理解してもらいます。その上で、為替見通し、金融市場の分析手法について理解してもらいます。

そのうえで、ドル体制の変遷、ユーロ導入のプロセス、その対抗、世界経済・金融危機について理解してもらうことを到達目標とします。

履修上の注意

現実の国際金融市場について講義しますので、新聞などをよく読んでください。30分以上の遅刻は欠席とし、30分以内の遅刻二回で欠席一回とします。

予習復習

講義の予習・復習をおこなってください。そうしないと、講義の内容がわからなくなることもあります。

評価方法

中間試験(30%)と期末試験(70%)によって総合的に評価します。

テキスト

教科書は使用せず、適宜、レジメなどを配布します。